

佐渡における植物観察記録 8

渡辺 洋子

[佐渡島 新記録]

キヨスミウツボ *Phacellanthus tubiflorum* Sieb. et Zucc. はまうつぼ科

相川 ドンデン 820m

[両津北部 5738-13-71]

東アジアの温帯・暖帯に分布する寄生植物。県内では稀で、県絶滅危惧VUである。島内でははじめての確認である(写真1)。



写真1-1 キヨスミウツボ 生育地 (2009 7/16)



写真1-2 キヨスミウツボ 花茎(2009 7/17)

シュウブンソウ *Rhynchospermum verticillatum* Reinw. きく科

両津 吾潟 10m [両津 5738-03-45]

7月31日に沢すじの道沿いに生えていたが、花期でなかったので、9月16日に再度尋ねて確認して写真を撮影した(写真 2)。

平凡社「日本の野生植物(1981)」や牧野植物図鑑(1989)では、関東以西と記されて居るが、奥山(1984)では、本州(東北地方南部以西)で、分布図に山形県の打点がある。山形県では飽海郡遊佐町で確認されている(加藤 1972)が、新潟県でははじめての確認である。



写真2-1 シュウブンソウ生育地での全形(2009 9/16)

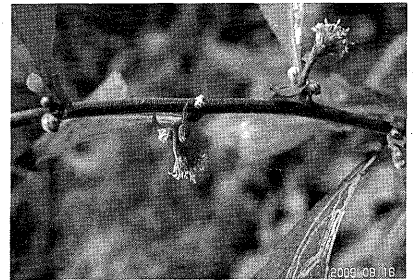


写真2-2 シュウブンソウ花をつけた枝(2009 9/16)

[佐渡島 分布確認・追加]

タチシノブ (カンシノブ) *Onychium japonicum* (Thunb.) Kunze ほうらいしだ科

両津 河崎 120m [両津 5738-03-49]

島内では、小泊(北見 1963), 水津(野田 1969), 真野国分寺・羽茂取立・金井千種(牧野 2000)の記録がある。牧野は県内全てが整地され、現存していないとの危惧を示している。しかし、その後、新津植物資料室年報6で新津秋葉山60mのものが報告された。2009年佐渡でも河崎川の河原の土手に群生しているのが見つかったので報告する(写真3)。本種は県絶滅危惧VUである。



写真3-1 タチシノブ 葉(2009 3/9)



写真3-2 タチシノブ 葉(2009 3/9)

マルミノヤマゴボウ *Phytolacca japonica* Makino やまごぼう科

相川 ドンデン 820m [両津北部 5738-13-71]

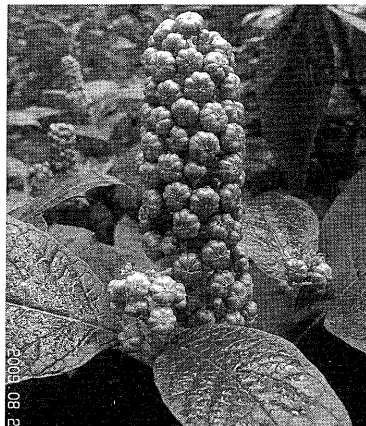
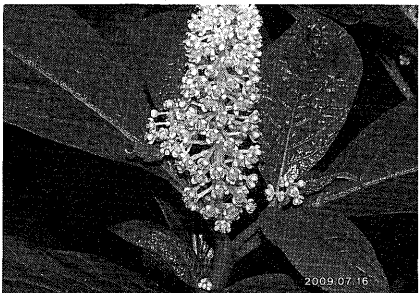
北見(1963)に石名及び佐和田町, 野田(1969)に二宮(半野生)の記録があるが, ドンデンキャンプ場道の脇にはえているもの(写真4)を報告する。1995年頃からドンデンの *Phytolacca* を認識していたが, 昨年相川ではじめてヤマゴボウを見て, ドンデンのものがマルミノヤマゴボウであるとの確信を得た。両方の果実の状態も撮影できたので掲載する。奥山(1984)によれば分布は, 本州の関東から西, 及び四国・九州である。

ヤマゴボウ *Phytolacca esculenta* van Houtt. やまごぼう科

相川 橘[稻鯨 5638-71-78]; 高瀬[稻鯨 5638-71-99];

千畳敷[相川 5738-01-48]; 両津 秋津[両津 5738-03-74]

中国原産。北見(1963)及び新潟県分布図集9(1988)に記録があるが, 2008年に相川地区3ヶ所, 今年両津地区1ヶ所で見したが, 前種との比較を兼ねて掲載した(写真5)。いずれも野生状態であった。

写真4-1 マルミノヤマゴボウ 自生地
(開花状況) (2009 7/16)写真4-3 マルミノヤマゴボウ
若い果実(2009 8/26)写真5-1 ヤマゴボウ 千畳敷
(2008 6/13)写真4-2 マルミノヤマゴボウ 花穂
(2009 7/16)写真4-4 マルミノヤマゴボウ
成熟した果実(2008 9/26)写真5-2 ヤマゴボウ
秋津(2008 6/2)ヒカゲスミレ *Viola yezoensis* Maxim. すみれ科

両津 両尾 100m [水津② 5738-04-71]

北見(1963)による乙和池・戸地, 県植物分布図集第1集による西三川600mと同第16集による妙見山の記録があるが, 両尾の山道の谷側斜面でも生育していたので, 追加する(写真6)。県絶滅危惧VUである。



写真6-1 ヒカゲスミレ(2009 4/28)

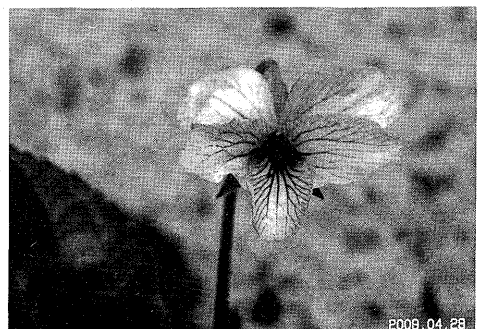


写真6-2 ヒカゲスミレ 花 (2009 4/28)

ゴバンノアシ *Barringtonia asiatica* (L.) Kurz. さがりばな科

赤泊 蕨場 [赤泊 5638-63-66]

奥山春季(1974)の佐渡の項に、果実漂着との記載があるが、2009年蕨場の砂浜に漂着していた(写真7)。その場で振ってみると、コトコトと種子が動いていると思われる音がしていた。

ナベナ *Dipsacus japonicus* Miq. まつむしろう科

畑野 浜河内 100m [畑野 5638-73-07]

新穂 大野240m [畑野 5638-73-66], 同 50m [両津 5738-03-04]

北見(1963)に矢柄、野田(1969)に松ヶ崎、新潟県植物分布図集第9集に畑野町河内の記録がある。2009年、畑野の浜河内の小さな沢の入口に20株ほど、自動車道路沿いに30株ほどみつけたので報告する。これは分布図集の畑野河内の1940年の採集標本と同じ場所かもしれない。また、新穂大野川ダムの上流と、上大野の集落内にも自生しているので、追加報告する(写真8)。この種も県絶滅危惧VUである。

タケシマラン *Streptopus streptopoides* (Ledeb.) Frye et Rigg var. *japonica* Fassétt ゆり科

相川 戸地 840m [相川② 5738-02-95]

北見(1963)による金北山、県分布図集第9集に金北山800m・カキツバタ池東の記録があるが、2009年に戸地川の上流の流れに沿った土手に30株の生育を確認した(写真9)。

[帰化植物]

ブラジルコミカンソウ (ナガエコミカンソウ) *Phyllanthus corcovadensis* Muell. Arg. どうだいぐさ科

両津夷 [両津 5738-03-94]

インド洋諸島原産の帰化植物。清水他(2001)によれば”葉腋に5mmほどの柄のある1から数個の花を下向きにつける。同属のキダチミカンソウは果柄が短い”とのことである。街角のわずかな空き地に6株ほど、花と実をつけていた(写真10)。



写真7 ゴバンノアシ(2009 8/4)



写真8-1 ナベナ 浜河内
(2009 10/6)



写真8-2 ナベナ 新穂大野
(2009 10/11)



写真9 タケシマラン 戸地川 上流
(2009 5/7)



写真10-1 ブラジルコミカンソウ
株(2009 9/14)

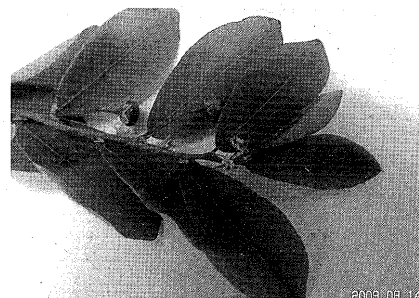


写真10-2 ブラジルコミカンソウ
果実をつけた茎葉
(2009 9/14)

参考図書

池上義信(監)・石沢 進(編) 新潟県植物分布図集 植物同好じんねんじよ会
第1集(1980), 第9集(1988), 第16集(1995)

石沢 進(2007) 分布上顕著な新津の植物(6) 新津植物資料室年報2006

加藤信英(1972) 山形県庄内地方北部の興味ある植物について(第2報) ふろら山形 No. 28:19-23.

北見秀夫(1963) 佐渡の植物 佐渡博物館研究報告第5集

牧野恭次(2000) 新潟県の羊歯植物誌

牧野富太郎(1989) 改訂増補 牧野新日本植物図鑑 北隆館

野田光蔵(1969) 越後の植物誌

奥山春季(1974) 採集検索 日本植物ハンドブック 八坂書房

奥山春季(1984) 原色日本野外植物図譜 誠文堂新光社

清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七(2001) 日本帰化植物写真図鑑 全国農村教育協会

魚沼市小出地域の植物(3)

富永 弘

1 小出のラショウモンカズラと周辺における「ラショウモンカズラ型分布」の植物

ラショウモンカズラは、新潟県内において特異な分布型を持ち、ユキツバキやコシノチャルメルソウ等の分布との関連がよく知られている(松田1981, 石沢1996)。石沢(1985)によれば、「ユキツバキは新潟県内に広く分布しているが、ラショウモンカズラは、ユキツバキの分布限界近くのみ生育する。換言すれば、ラショウモンカズラは、ユキツバキの分布域を取り囲むようにして生育している」とされている。魚沼地域におけるラショウモンカズラの既知の分布地は、奥只見、湯沢、塩沢などユキツバキの分布限界に近い場所である。

このようなことから、「ほぼ全域に渡ってユキツバキが高密度に分布している小出には、ラショウモンカズラは生育していないだろう」と考えていたが、2007年に魚沼市の小出地域(魚野川の左岸:西側)で、ラショウモンカズラの生育を確認したので報告する。生育地は一箇所だが、小さな群落を形成し、開花も多く花後の匍枝の伸長等も旺盛で、生育状況は良好である。花期には、一角が紫の絨毯状になって見事な景観を呈する。生育地はスギ林の縁であり、高木はスギのほかにはケンボナシの大木が1本あるのみである。スギ林のために日当たりは少なめで、湿り気が多い印象の場所である。

なお、ここに報告する小出の生育地に隣接した旧大和町西山(魚野川左岸の魚沼丘陵)にも、ラショウモンカズラが生育するという話も聞いているが、現状では未確認である。

生育地に見られる植物は以下のようなものである。

高木:スギ、ケンボナシ

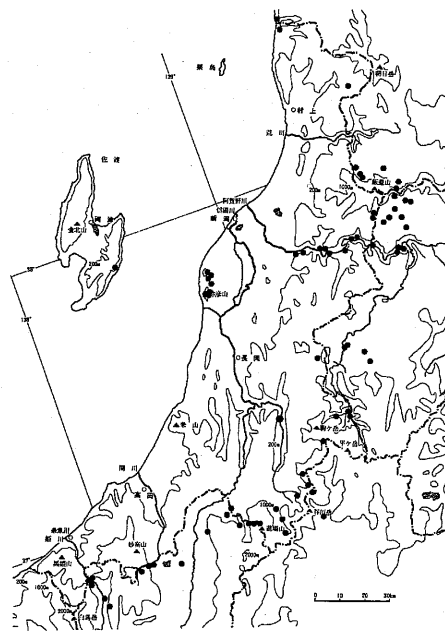


図1 ラショウモンカズラの新潟県における分布(大木1980)



写真1-1 ラショウモンカズラ(チマキザサと混生) ['08 5/18 小出]



写真1-2 ラショウモンカズラ(群生して満開) ['08 5/18 小出]